

令和5年度第3回大府市ひきこもり支援地域協議会議事録（要約）

日時 令和6年2月5日（月）午後1時30分から午後2時30分まで

会場 大府市役所 全員協議会室

出席者 （協議会委員）※敬称略

副会長 來多泰明、外波祐二、神谷恵美子、杉原直樹、竹内美喜、井戸千尋
時安利栄、野口桂子、池田久絵

欠席者 山田武司、吉田浩子、近藤美智雄

（事務局）※所属順

福祉部長 猪飼、福祉総合相談室長 小清水、福祉総合相談室主査 山下、福祉
総合相談室主事 伊藤、地域福祉課長 長坂、健康増進課長 原田、学校教育課
指導主事 伊賀、学校教育課スクールソーシャルワーカー 山田、教育支援セン
ター代表 蟹江

（傍聴者）1名

<司会：事務局>

1 副会長あいさつ

元旦の地震に驚いた。北陸に暮らすひきこもりの方のことを心配している。東日本大震災が発生した際、福島相馬市で震災支援をチームで行い、精神障害者手帳を持っている人のところを個別訪問した。病院通院ができない人もいた。避難所を出ること、外に出ることなど、ひきこもりの人にはハードルが高い。保健師が一軒一軒訪問しアウトリーチでの支援の必要性を感じた。次年度以降も様々な領域で活躍されている委員の皆様の御協力で、大府市のひきこもりの支援が実施されていくと良い。

2 議題

<進行：副会長>

（地域との関わり、地域資源へのつながりについて（資料No.1）

（事務局から資料に沿って説明）

委員）

- ・世代ごとのスタッフが必要だと感じるが居場所のスタッフが不足している。災害等のボランティアのようなボランティア募集を社会福祉協議会に投げかけたことがある。
- ・可能であればボランティアを募集し養成研修会を開催し、ボランティアを育成することを考えてみてはどうか。
- ・ボランティアの中には、ひきこもりの知識が無い場合もある。日本福祉大学美浜校が東海市に移転するようになるので、学生も東海市に移ってくると思う。現場体験の場として、学生ボランティアを募集することが可能ではないか。
- ・大学の生徒も授業としてボランティア経験ができる仕組みがあると良いのではないか。

- ・子ども食堂が1階、ひきこもりの居場所を2階でおこなっている。子ども食堂を借りて何かできないか検討した結果、食に関しては居場所にくる青年たちの意欲が増していた。話しながらコミュニケーションも経験できた。お年寄りやこども、スタッフの家族など、自由に参加できる居場所が良い。
- ・一般の方が持ちかねない先入観や偏見をなくしていけるような、行事活動を一緒に行える場があっても良いかもしれない。
- ・大学卒業し優秀な青年たちがうつ病になり困ってしまった企業がある。その企業は農業事業部を立ち上げ、野菜を育てる楽しみ、収穫する楽しみ等を感じながら、生き生きと働いていると聞いている。大府市にある休耕地などを活用し居場所づくりをおこなっても良いのではないか。
- ・不登校やひきこもりの生徒をよさこい踊りという居場所を提供したことがある。居場所づくりは大切だと思う。
- ・企業が関心をもってもらえると良い。
- ・地域に住む高齢者の花壇の手入れをシルバー人材センターに依頼したところ数万円という高額費用がかかったという話を聞いた。人助けをできる場というのは、意外と身近にあり、同じコミュニティの中にもあると思う。
- ・地域での困りを共有できるような場があり、自尊感情が低い当事者に、地域で困っていることを支援してもらえるように、当事者と地域を支援者が繋いでいくのも良いと思う。
- ・支援を求める人と当事者をつなぐ役目が必要。今後の課題として、企業での活動実施など仕事に直結することになった場合、本人たちが「ボランティアの延長で何ももらえない方が良いのか」迷うところだが、経費を支払ってあげられるような工夫が必要である。
- ・就労だけでなく、交流も意識すると良いのではないか。
- ・様々事業を繋げていく支援者が必要であり、上手く就労へつなげることが大切である。細かい工夫や配慮が必要であり、金銭的な面にも配慮が必要である。
- ・障がい者相談支援センターでは、相談支援は今もやっている事である。相談支援と記載されているのは、今後内容等を変えて実施するという意味か。

事務局)

- ・特に変わりはないが、今以上に連携を深めていきたい。

委員)

- ・障がい者相談支援センターで関わっている人がいる。なかなか福祉サービスで改善できないことや、何年もかかる場合があるが、参加支援事業を紹介した場合、福祉総合相談室と一緒に考えてもらえるという意味か。

事務局)

- ・連携して一緒に考える。

委員)

- ・療育手帳の再判定の時に、ひきこもり状態になってしまった人にチラシを配布することができる。

- ・紹介できる一覧があると、ひきこもり相談時に配布できる。
- ・謝礼を検討するようだが、交通費も支払うことが困難な人もいるので、検討材料に加えると良いのではないか。

3 情報交換

委員) ちた地域若者サポートステーションより

- ・NPO 法人 ICDS について

「種まくプロジェクト」児童擁護施設にキャリアコンサルタントを派遣

4 その他

- (1) 令和6年度支援計画(実施内容)について(資料No.2)
(事務局から資料に沿って説明)
- (2) 令和6年度第1回大府市ひきこもり支援地域協議会について
令和6年6月頃開催予定